西洋絵画（５）

白鷹町所蔵　梅津五郎作≪調理場≫の保存修復

中右恵理子 Nakau. Eriko／文化財保存修復研究センター専任研究員・講師
長峯朱里 Nagamine. Akari／文化財保存修復研究センター嘱託研究員

図１．修復前

図２．修復後

第一章　作品概要

○作　者：梅津五郎
○作品名：調理場
○制作年：1956年（昭和31年）
○寸　法：910mm×1165mm　50号　F型
○材質技法：油彩／画布
○署　名：赤絵具で画面右下端に“G”
○付属品：額
○額寸法：1210mm×1709mm×78mm

第二章　損傷状態

本作品の支持体は下の大きな１枚と、裏面右端の小さな１枚、横の細長い１枚の計３枚を継いで作られている。裏面左上と下のキャンバスは端布の部分が使用されている（図３）。

本作品は2005年に応急処置が施されている。旧処置報告書によると、合成樹脂系のワニスが塗布されている。ワニスによる光沢ムラが部分的に生じており、塗布時の刷毛目が見られる。ベージュのタイル部分には、ワニスだまりのような半透明の層が確認できる。旧処置内容は以下の通り。

１．チアベンダゾールを表裏に刷毛塗り（防カビ処置）
２．ワニスを塗布
３．亀裂・剥落部位にワックス充填（未整形）
４．部分補彩

画面下部の赤レンガや鶏の亀裂は旧処置にてワックスで押えられている。ワックスは滴下した状態のまま固化しており、作品鑑賞の妨げとなっている。

絵具層では、全体的に細かな乾燥亀裂、経年に伴う亀裂が生じている。時に下部の赤茶色のタイル部分に上下方向の大きな亀裂が見られる。一部には著しい浮き上がりが見られ、剥落の危険性が高い状態である。支持体の継ぎ目はキャンバスの動きが大きいためか、亀裂が多く観察された。

支持体への旧処置は無い。画面側の絵具層に合わせて支持体の変形が見られた。全体的に張りがゆるく、キャンバスがたわむ状態である。裏面には絵のモチーフに沿ってできた油染みが全体に見られる。

第三章　処置方針

作品の状態などの観察から、以下の処置方針を立てた。

・作品の亀裂や剥落が目立ち、剥離の危険性が高い状態である。これらを膠水溶液で接着を行い、絵具層を安定させる。
・旧処置のワックスは出来るだけ除去し、鑑賞性を向上させる。
・作品下辺の右側の支持体は短い状態で、釘の酸化による穴が多数見られ、張りが弱い状態だった。部分的に張りしろの接着と穴の補填を行い、張り直すことで作品の構造を安定させる。
・本作品の木枠の中桟は額より高さがある。そのため、額の泥足の高さを調節し、作品の保管環

境を改善する。額の裏面には裏板を入れることで埃の侵入・付着や湿度の影響を受けにくくする。
・吊り金具、釣り紐を交換する。
・修復時に使用するものはすべて可逆性のあるものを使用する。

第四章　修復処置

処置方針を踏まえ、以下の処置を行った。

1．修復前の写真撮影、状態調査を行った。
2．亀裂や剥落周囲の絵具層の浮き上がり箇所を膠水を用いて接着強化した（図４）。
3．ワックスが過分に施された箇所はアセトン溶液を用いて除去した。
4．裏面の埃汚れを筆、ミュージアムクリーナー、天然ゴムスポンジで除去した。
5．画面の埃汚れ・膠の付着を精製水で洗浄した。
6．作品下辺の釘を数本抜き、部分的に新規張りしろと、穴部分に小さい布をBEVA371で接着した（図５）。
7．釘の錆をメス、アセトンで可能な限り除去し、錆予防のためにパラロイドB72を塗布した。
8．木枠の釘穴にメチルセルロースと木粉を練り合わせた充填剤を入れた。
9．作品を張り込み直した（図６）。
10．絵具層の欠損部分に、石膏と膠の充填材を筆で塗布し、乾燥後メスなどで削り、周囲に合わせて整形した。
11．充填箇所を、周囲の色に合わせて、水彩絵具とアクリル樹脂絵具で補彩した。
12．ステンレス製Ｔ字金具で作品を額に固定後、ポリカーボネート板を裏蓋として取り付けた。
13．強度の高いケブラー繊維の吊り紐を新調した。
14．修復後の写真撮影を行った。

第五章　まとめ

作品の亀裂や剥落を接着し、作品の安定性が向上した。旧処置のワックスの除去を除去したことで、画面に統一性が出て、鑑賞性を回復することができた。張りしろの接着と穴の補填を行い、張り直したことで、部分的なキャンバスのたわみが解消し、作品が構造的に安定した。額の泥足の高さを調節し裏板を入れ、作品の保管環境を改善することができた。

図３　作品裏面

図４　絵具層の亀裂・浮き上がり

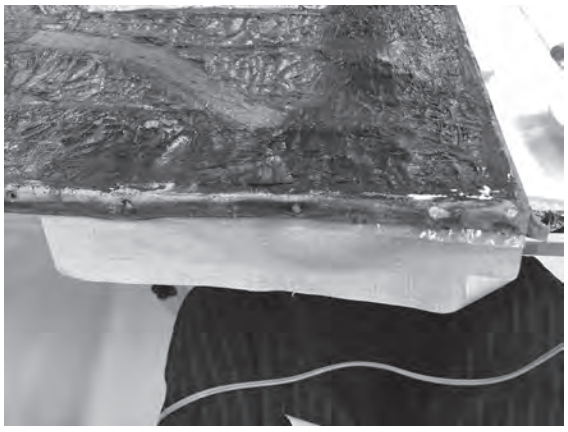

図５　部分張りしろ接着

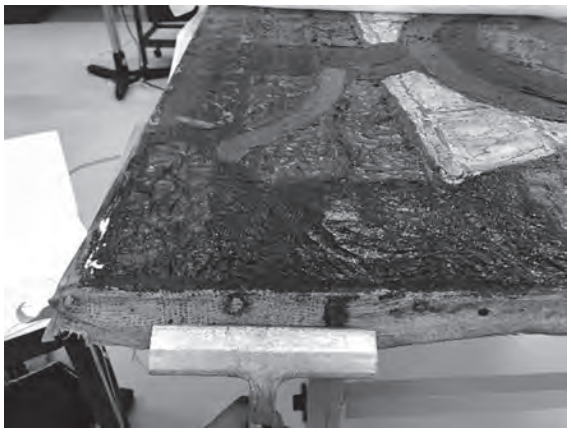

図６　作品張り込み